

学院部「真宗要論」藤澤信照

【講義の概要】

この講義では、親鸞聖人が「浄土真宗」と名づけられた教えについて、基本的なことを学んでいく。

浄土真宗の開祖である親鸞聖人は、仏教の開祖であるお釈迦さまが説かれた教えの中から『大無量寿経』を選び取られ、これを真実の教えとし、この經典に説かれた教えを「浄土真宗」と名づけられた。『大無量寿経』の教えは、そこに説かれた阿弥陀仏の四十八の誓願、その中でも中心となる第十八願におさまる。

第十八願には、阿弥陀さまから与えられる信心と念仏と、それを因として浄土に往生して悟りの仏となる果が説かれています。これを往相の四法（教・行・信・証）という。さらには、浄土に往生して真実の悟りを開き、仏となったものは、迷える人々を救うべき身となります。これを還相という。

このように、浄土真宗とは、往相と還相という二つのことを阿弥陀如来という仏さまから回向される（めぐまれる）という、阿弥陀さまの救いをあらかず教えなのである。

さらに親鸞聖人は、ただちに真実の教えを受け容れることができない人たちのために、教育的手段（これを方便の教えといいます）を施された仮の法門や、仏教の道理である因果の道理にそむく教え（これを邪偽の教えといいます）に心奪われている者をいましめ、真実に導いていくという、真実以外の教えについても説かれている。

このような浄土真宗の教えの全体像を学んでいくのが、真宗要論の講義内容ということになる。これから一年間、皆さんと一緒に親鸞聖人が明らかにされた浄土真宗の教えについて学んでいきたい。

【テキスト】

『『教行信証』からひもとく浄土真宗の教え』（法蔵館、1,800円、税別）をテキストとして用いる。

この書は、この講義を担当する藤澤が、行信仏教学院に入学させていただいた年（昭和56年）に、梯實圓先生よりお聞きした講義録を基にした、本願寺出版社の月刊『大乘』の2年間24回にわたる連載を書籍化したものである。

ただし、年度当初しばらくは下記の参考図書のうち、梯實圓著『親鸞聖人の生涯』を参考に、親鸞聖人の生涯について概略の講義をするので、受講予定者は購入しておいてほしい。

【参考書としておすすめの本】

勸学寮編『親鸞聖人の教え』（本願寺出版社）

梯實圓著『親鸞聖人の生涯』（法蔵館）

石田慶和集Ⅲ『真宗入門』（本願寺出版社）

柏原祐義著『浄土三部経講義』（平楽寺書店）※すでに絶版で、古本で出ている。

【自己紹介】

藤澤 信照（ふじさわ しんしょう）

1958（昭和 33）年、鹿児島県川内市（現、薩摩川内市）生まれ。

鹿児島大学理学部卒業。行信仏教学院ならびに行信教校卒業後、滋賀県東近江市浄光寺に入寺。その後、龍谷大学大学院文学研究科博士後期課程修了。

現在、行信教校講師、元布教使課程専任講師、滋賀県東近江市浄光寺住職。

著書

『親によばれてー浄光寺報法話集ー』（響流書房）

仏教讃歌「本願力のめぐみゆえ」解説と味わい（浄光寺）

『『教行信証』からひもとく浄土真宗の教え』（法蔵館）

共著『大きな字で読みやすい 浄土真宗やわらか法話 2』（本願寺出版社）

共著 2018（平成 30）年真宗教団連合法語カレンダー『月々のことば』（本願寺出版社）

論文 『行信学報』などに、多くの研究論文を発表

【学生さんへのメッセージ】

行信教校には昭和 56 年に入学し、滋賀県のお寺に入寺するまで、5 年半ほど在籍し、寮生活をしていました。講師ではありますが、皆さん方の先輩でもあります。寮生活、学校生活についてのこと、勉強方法について、気軽にたずねてもらったらうれしいです。

滋賀県のお寺は公共交通機関が不便なところがあるので、毎回、車で約 1 時間半かけて学校に通っています。お寺のあるあたりは、大阪の町中と違って、自然がいっぱいのところです。

機会があったら、ぜひ遊びに来てください。

趣味は音楽。クラシックギター演奏。地域のコーラスの指導もしています。